

国水情第45号
平成29年3月31日

北海道開発局長 殿
各地方整備局長 殿
沖縄総合事務局長 殿

国土交通省 水管理・国土保全局長（公印省略）

水文観測業務規程細則の改定について

水文観測業務規程（平成14年4月22日付け国河環第6号事務次官通達）の改定については、平成29年3月31日付け国水情第44号事務次官通達により通知されたところであるが、今般、同細則（平成26年3月20日付け国水情第45号水管理・国土保全局長通達）を別添のとおり改定したので、今後はこれにより実施されたい。

なお、本細則は、平成29年1月1日以降の観測より適用することとする。

別 添

水文觀測業務規程細則

水文観測業務規程細則

目 次

第1章 総則	
第1条 目的	1
第2条 定義	1
第2章 観測所	
第3条 観測所の設置	5
第4条 観測所台帳の作成及び保存	5
第5条 観測所の表示	5
第6条 観測所記号	5
第3章 観測の実施	
第7条 単位及び最小単位の取り方	6
第8条 観測の項目	6
第9条 観測器械及び施設	7
第10条 観測方法	8
第11条 観測野帳の種類及び様式	8
第12条 水文観測業務計画	8
第4章 観測成果	
第13条 データベースの整備	9
第14条 水文観測データの整理及び観測成果の報告	9
第15条 観測成果の保存	9
第16条 観測成果の公表の方法等	9
第17条 年表の作成時期	9
第18条 年表に掲載する観測所	10
第5章 監査	
第19条 監査の実施	10
第20条 監査の実施項目	10
第6章 技術開発等	
第21条 技術開発等を行う観測所	10
第7章 品質管理	
第22条 照査の方法	10
第23条 照査の時期	10
第24条 品質管理組織の構成	10
第8章 観測所の維持管理等	
第25条 観測所の維持及び管理	11
第26条 観測所が被災したときの処置	11
第9章 雑則	
第27条 実施運用の制定	11

水文観測業務規程細則

第1章 総則

(目的)

第1条 この細則は、水文観測業務規程（平成29年3月31日付け国水情第44号。以下「規程」という。）第26条に基づき、水文観測業務の実施に必要な事項を定め、もって水文観測業務の適正な実施を行うことを目的とする。

(定義)

第2条 この細則において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 観測

イ 水位標（量水標）観測

水位標の目視又は画像解析による観測をいう。

ロ 自記観測

記録器（テレメータ、自記記録計、電子ロガー等）を有する器械による観測をいう。

ハ レーダ観測

レーダ雨量計（レーダ送受信装置、収集処理装置、解析処理装置、合成処理装置等）による観測をいう。

ニ 採水観測

採水分析（採泥分析を含む。）による観測をいう。

二 降水量

イ 時間降水量

毎正時における前1時間の降水量をいう。

ロ 日降水量

午前0時から24時間の降水量をいう。

ハ 10分降水量

毎正時から10分毎に観測される前10分間の降水量をいう。

ニ 60分降水量

10分降水量データを連続60分間合計したものをいう。

ホ 3時間降水量

時間降水量データを連続3時間合計したものをいう。

ヘ 24時間降水量

時間降水量データを連続24時間合計したものをいう。

三 レーダ雨量

イ 降水強度

ある定められた時刻間に測定された降水量を1時間当たりに換算したものをいう。

ロ Cバンドレーダオンライン合成雨量データ

複数のCバンドレーダ雨量を合成し、入手可能な最新の雨量観測所における降水量から現在時間のレーダ雨量の補正を行ったレーダ雨量データをいう。

ハ Cバンドレーダ同時刻合成雨量データ

複数のCバンドレーダ雨量を合成し、レーダ雨量及び雨量観測所における降水量の観測時刻を一致させて補正を行ったレーダ雨量データをいう。

ニ XバンドMPレーダ合成雨量データ

複数のXバンドMPレーダ雨量を合成したレーダ雨量データをいう。

ホ CバンドMPレーダ・XバンドMPレーダ合成雨量データ

複数のCバンドMPレーダ雨量とXバンドMPレーダ雨量を合成したレーダ雨量データをいう。

四 積雪深

ある定められた時刻での積雪の深さをいう。

五 河川の水位

イ 最高水位

ある時期を通じての最高の水位をいう。

ロ 日平均水位

1時から24時の時刻水位の総計を24で除した水位をいう。

ハ 豊水位

一年を通じて日平均水位が95日はこれを下らない水位をいう。

ニ 平水位

一年を通じて日平均水位が185日はこれを下らない水位をいう。

ホ 低水位

一年を通じて日平均水位が275日はこれを下らない水位をいう。

ヘ 渇水位

一年を通じて日平均水位が355日はこれを下らない水位をいう。

ト 最低水位

ある時期を通じての最低の水位をいう。

チ 平均低水位

年平均水位以下の日平均水位を平均した水位をいう。

リ 年平均水位

日平均水位の1年の総計を当年日数で除した水位をいう。

ヌ 時刻水位

毎正時に観測される水位をいう。

ル 10分水位

毎正時から10分毎に観測される水位をいう。

六 流量

イ 最大流量

ある時期を通じての最大の流量をいう。

- ロ 日平均流量
1時から24時の時刻水位に対する流量の総計を24で除した流量をいう。
 - ハ 豊水流量
一年を通じて日平均流量が95日はこれを下らない流量をいう。
 - ニ 平水流量
一年を通じて日平均流量が185日はこれを下らない流量をいう。
 - ホ 低水流量
一年を通じて日平均流量が275日はこれを下らない流量をいう。
 - ヘ 渇水流量
一年を通じて日平均流量が355日はこれを下らない流量をいう。
 - ト 最小流量
ある期間を通じての最小の流量をいう。
 - チ 平均低水流量
年平均流量以下の日平均流量を平均した流量をいう。
 - リ 年平均流量
日平均流量の1年の総計を当年日数で除した流量をいう。
 - ヌ 年総流量
日平均流量の一年の総計に、1日の秒数を乗じた値をいう。
 - ル 比流量
流量を流域面積で除した値をいう。
 - ヲ 流出高
年総流量を流域面積で除した値をいう。
- 七 水質
- イ 日間平均値
1日の全測定値の合計をその測定回数で除した値をいう。なお、通日調査が二日間にあたる場合は、全測定値の合計をその測定回数で除した値を初日の日間平均値とする。
 - ロ 平均水質
日間平均値の合計を当年の測定回数で除した値をいう。
 - ハ 75%値 (BOD, COD)
当該年におけるn個の日間平均値を数値の小さい順に並べ $[0.75 \times n]$ 番目にくる測定値をいう。 $[0.75 \times n]$ が整数にならない場合は、その数の端数を切り上げて整数としたときの測定値とする。
 - ニ 最大水質 (日)
年間の日間平均値の最大の値をいう。
 - ホ 最小水質 (日)
年間の日間平均値の最小の値をいう。
 - ヘ 最大水質 (全)
年間の全測定値の最大の値をいう。
 - ト 最小水質 (全)

年間の全測定値の最小の値をいう。

八 地下水位

イ 時刻水位

毎正時に観測される水位をいう。

ロ 日平均水位

自記水位観測において1時から24時の時刻水位の総計を24で除した水位をいう。

ハ 月平均水位

水枯れ又は湧水である日を除いた1ヶ月間の日平均水位の合計を1ヶ月間の日平均水位が記入してある日数で除した水位をいう。

ニ 月最高水位

1ヶ月間の日平均水位の最も高い水位をいう。

ホ 月最小水位

1ヶ月間の日平均水位の最も低い水位をいう。

ヘ 年平均水位

1年間の月平均水位の合計を月平均水位が記入してある月数で除した水位をいう。

九 暫定値

イ 降水量にあつては、規程第22条に基づく照査が行われていない値をいう。

ロ レーダ雨量にあつては、観測時刻が一致する雨量観測所における降水量で補正が行われていない値をいう。

ハ 河川の水位及び河川の流量にあつては、規程第22条に基づく照査が行われていない値をいう。

ニ 河川の水質にあつては、水質自動監視装置による値をいう。

ホ 地下水の水位については、観測器械の不具合による異常値の棄却等、水文観測データの整理が行われていない値をいう。

十 確定値

イ 降水量にあつては、規程第22条に基づく照査が行われた値をいう。

ロ レーダ雨量にあつては、観測時刻が一致する雨量観測所における降水量で補正が行われた値をいう。

ハ 河川の水位並びに河川の流量にあつては、規程第22条に基づく照査が行われた値をいう。

ニ 河川の水質にあつては、採水びん又は採水器等により現地採水の上、現場試験及び室内試験による値をいう。

ホ 河川の底質及び地下水の水質にあつては、規程第12条に基づく方法による値をいう。

ヘ 地下水の水位にあつては、観測器械の不具合による異常値の棄却等、水文観測データの整理が行われた値をいう。

第2章 観測所

(観測所の設置)

第3条 観測所の配置及び設置、観測器械の配備の方法等は別に定める。

(観測所台帳の作成及び保存)

第4条 規程第8条第1項に基づく観測所台帳の作成及び保存は、別表1によるものとする。

2 別表1に掲げる様式1の1から1の18までについては、電子情報により保存しなければならない。

3 レーダ雨量観測所については、規程第13条第2号の運用計画と合わせて整理する。

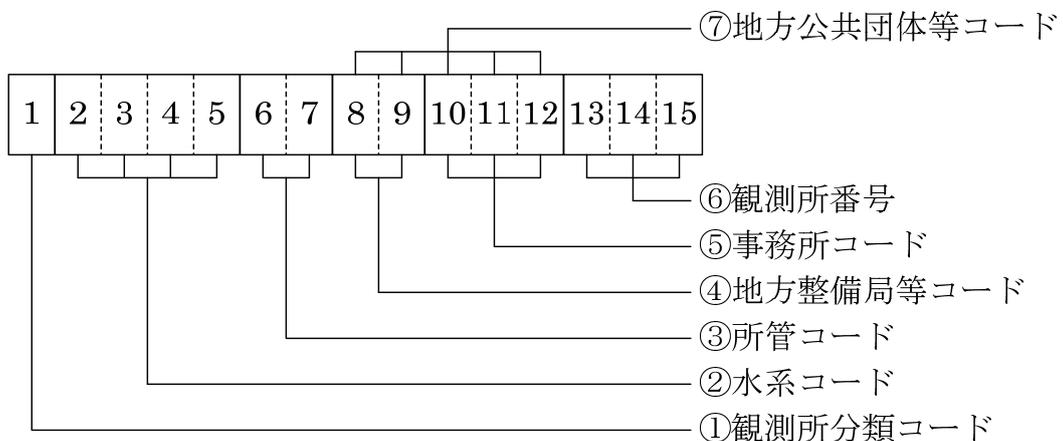
(観測所の表示)

第5条 規程第9条に基づき設置する標識(看板等簡易な工作物を含む。)に表示する事項は次の各号によるものとする。

- 一 水系名、河川名
- 二 国土交通省〇〇〔雨量、レーダ雨量、水位、水位流量、水質、底質、地下水位又は地下水質〕観測所
- 三 水位、水位流量、水質及び底質観測所にあつては、河口又は合流点からの距離
- 四 雨量、水位、水位流量及び地下水質観測所にあつては、標高(水位及び水位流量観測所にあつては零点高を併記する。)
- 五 位置(都道府県、区郡市、町村、大字及び字並びに緯度及び経度(世界測地系))
- 六 設置年月日
- 七 設置者名(地方整備局名、事務所名)
- 八 その他参考となる事項

(観測所記号)

第6条 規程第10条に基づく観測所記号は、次のとおり、数字15文字をもって構成するものとする。



その際、①～⑤及び⑦のコードは別表2の1～6によるものとする。

- 2 一度設定された観測所記号は、統廃合、移管等に際しても変更してはならない。ただし、観測所が廃止され、その付近に新たに観測所が設置される場合において、廃止された観測所の観測資料が新たに設置された観測所で引き続き使用することができるものと認められるときに限り、廃止された観測所の観測所番号を新たに設置される観測所番号として使用することができる。

第3章 観測の実施

(単位及び最小単位の取り方)

第7条 規程第14条の水文観測データの整理に用いる単位及び最小単位の取り方は、次のとおりとする。

[事項]	[単位]	[最小単位]
気 温	℃	1/10
降 水 量	mm	1
降水強度	mm/h	1/10
積 雪 深	cm	1
水 位	m	1/100
流 速	m/sec	1/100
断 面 積	m ²	1/100
流 量	m ³ /sec	1/100
比 流 量	m ³ /sec/km ²	1/100
流出高	mm	1
年総流量	10 ⁶ m ³	1/100
流域面積	km ²	1/100

- 2 水質及び底質の単位及び最小単位の取り方は、別に定める。

(観測の項目)

第8条 観測所においては、規程第11条に規定するもののほか、次の各号に掲げる観測所の種類に応じ、それぞれ当該各号に定める種目を観測しなければならない。ただし、地方整備局長（北海道開発局建設部長及び沖縄総合事務局長を含む。以下同じ。）又は事務所長（北海道開発局の開発建設部長及び沖縄総合事務局の事務所長を含む。以下同じ。）が特に支障がないと認める場合は、その一部若しくは全部を省略し、又は必要な種目を追加することができる。

一 雨量観測所

- イ 気温
- ロ 積雪深

二 レーダ雨量観測所

- イ 雨滴の粒径分布

三 水位流量観測所

- イ 観測時刻の天気
- ロ 風向風速

四 水質観測所

- イ 観測時刻の天気
- ロ 河川の水位
- ハ 河川の流量
- ニ 河川の水温
- 五 底質観測所
 - イ 観測時刻の天気
- 六 地下水位観測所
 - イ 地下水の水温
- 七 地下水質観測所
 - イ 観測時刻の天気
 - ロ 地下水の水位
 - ハ 地下水の水温

(観測器械及び施設)

第9条 観測に必要な観測器械及び施設若しくはその両方は、次の各号に掲げる観測所につき、それぞれ当該各号に定めるものとする。ただし、地方整備局長又は事務所長が特に支障がないと認める場合は、その一部若しくは全部を省略し、又は必要な観測器械及び施設を追加することができる。

- 一 雨量観測所
 - イ 自記雨量計
 - ロ 温度計
 - ハ 多雪地においては、積雪深計
- 二 レーダ雨量観測所
 - イ レーダ送受信装置
 - ロ 収集処理装置
 - ハ 解析処理装置
 - ニ 合成処理装置
 - ホ 雨滴粒径分布測定装置
- 三 水位観測所
 - イ 水準点
 - ロ 水位標
 - ハ 自記水位計（水位標により校正されたもの。）
- 四 水位流量観測所
 - イ 流速計
 - ロ 浮子
 - ハ 流速計測器械
 - ニ 水位勾配標
 - ホ 横断杭
 - ヘ 見通杭

- ト 浮子投下設備
- チ 第三号イ、ロ及びハと同等の観測器械
- 五 水質観測所
 - イ 採水びん
 - ロ 採水器
 - ハ 温度計
 - ニ pH 計
 - ホ 比色計
 - ヘ 透視度計
 - ト 水質自動監視装置
- 六 底質観測所
 - イ 採泥器
- 七 地下水位観測所
 - イ 水準点
 - ロ 自記水位計
- 八 地下水質観測所
 - イ 自記水位計又は携行型水位計
 - ロ 第五号イ、ロ、ハ、ニ、ホ及びヘ並びに七号イと同等の観測器械及び施設

2 前項各号に掲げる観測器械で検定規格のあるものは、検定に適合したものを使用しなければならない。ただし、検定規格が無い場合は、必要な性能を満たすことを証明する試験成績証明書等が添付された観測器械を使用するものとする。

3 第一項各号に掲げる観測器械は、必要に応じて二重化し、又は予備の器械を配備し、観測体制の信頼性を向上しなければならない。

(観測方法)

第 10 条 観測の方法は、規程第 12 条各号に規定するもののほかは、次の各号に掲げる観測の種類に応じ、それぞれ当該各号に定めるものとする。

- 一 気温
通風筒等に設置された温度計による方法
- 二 積雪深
露場に設置された積雪深計による方法

2 規程第 12 条第五号、第六号及び第八号の現場試験又は室内試験は別に定める。

(観測野帳の種類及び様式)

第 11 条 観測野帳の種類及び様式は、別表 3 に定めるものとする。

(水文観測業務計画)

第 12 条 規程第 13 条に基づく水文観測業務計画には、次の各号に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 各種観測所の年間観測予定（冬期閉鎖を含む。）
- 二 各種観測所の保守点検予定
- 三 各種観測所の補修予定
- 四 各種観測所の観測の方法
- 五 各種観測所の観測項目及び試験方法（雨量、水位、水位流量及び地下水位観測所を除く。）
- 六 技術開発を行う観測所及びその内容
- 七 その他必要な事項

第 4 章 観測成果

（データベースの整備）

第 13 条 地方整備局長は、観測所台帳の保存、水文観測データ及び観測成果の整理、保存及び報告並びに公表等に資するデータベースを整備しなければならない。

2 前項におけるデータベースの仕様等は別に定める。

（水文観測データの整理及び観測成果報告）

第 14 条 事務所長は、規程第 14 条に基づき水文観測データの整理を行い、別表 4 に定める様式に従い速やかに観測成果として地方整備局長に報告する。なお、整理及び報告は前条に基づくデータベースによるものとする。

2 前項の整理及び報告において、別表 4 に掲げる参考様式 3 の 30 及び 3 の 31 については、主要洪水及び主要渇水等、必要に応じて行うものとする。

3 第一項の報告に関わる水文観測データの統計処理方法については、別に定める。

（観測成果の保存）

第 15 条 規程第 15 条に基づく水文観測データの整理及び観測成果の保存は、別表 3 及び 4 によるものとする。

2 別表 3 に掲げる様式 2 の 1 から 2 の 4 まで及び別表 4 に掲げる様式 3 の 1 から参考様式 3 の 31 までについては、原本又は電子情報による保存としなければならない。

（観測成果の公表の方法等）

第 16 条 規程第 16 条に基づく観測成果の公表は、第 13 条に基づき整備したデータベースにより行わなければならない。

2 規程第 16 条に基づく観測成果の公表は、データベースに登録された確定値により行わなければならない。なお、規程第 22 条に基づく照査が完了するまでの期間は暫定値に登録し、必要に応じて公表することができる。

（年表の作成時期）

第 17 条 規程第 17 条に基づく年表の作成は、地方整備局長の報告を受けた後、速やかに行うものとする。

(年表に掲載する観測所)

第 18 条 規程第 17 条に基づき作成する年表に掲載する主要な観測所は、第 1 種観測所（レーダ雨量観測所を除く。水質観測所にあつては、第 2 種観測所を含む。）とする。

第 5 章 監査

(監査の実施)

第 19 条 地方整備局長は、規程第 18 条に基づく監査を、監査対象観測所を所管しない他の事務所長に行わせることができる。

(監査の実施項目)

第 20 条 規程第 19 条に規定する監査実施計画の内容は次の各号に掲げる事項とする。

- 一 観測所の観測環境に関する事項
- 二 観測所台帳の整備に関する事項
- 三 観測施設の整備及び維持管理に関する事項
- 四 観測器械の精度管理に関する事項
- 五 観測方法（水質、底質及び地下水質観測にあつては、試験方法を含む。）に関する事項
- 六 水文観測データ及び観測成果の整理及び保存に関する事項
- 七 各種観測所の監査予定
- 八 その他必要な事項

第 6 章 技術開発等

(技術開発等を行う観測所)

第 21 条 規程第 21 条に基づく技術開発等は、観測の高度化に資することを目的とし、水文観測業務計画に定めた観測所において行うものとする。

第 7 章 品質管理

(照査の方法)

第 22 条 規程第 22 条に基づく照査の方法は、別に定める。

(照査の時期)

第 23 条 規程第 22 条に基づく照査は、第 16 条に基づく公表を踏まえ、適切な時期に行わなければならない。

(品質管理組織の構成)

第 24 条 規程第 23 条に基づく品質管理組織は、原則として地方整備局（北海道開発局及び沖縄総合事務局を含む。）に設置するものとし、原則として技術的支援の観点から国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人土木研究所を参画させるものとする。

2 品質管理組織の事務局は、地方整備局河川部（北海道開発局建設部及び沖縄総合事務局開発建設部を含む。）に置くものとする。なお、必要に応じて技術事務所とすることができる。

第 8 章 観測所の維持管理等

(観測所の維持及び管理)

第 25 条 規程第 24 条に基づく観測所、観測器械及び観測施設の維持及び管理における点検は、年 1 回以上の総合点検、原則月 1 回以上の定期点検及び臨時点検を行う。

(観測所が被災したときの処置)

第 26 条 規程第 25 条第 3 項に基づく観測所被災報告の内容は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 ○○観測所被災報告書（様式 4）
- 二 被災状況写真
- 三 被災復旧設計書

第 9 章 雑則

(実施運用の制定)

第 27 条 地方整備局長は、水文観測業務を適切に実施するため運用を定めることができる。

別表1 観測所台帳様式等

様式番号	名 称	保存期間	保存場所・方法	
		(第1種観測所、第2種観測所及び第3種観測所)	(第1種観測所、2種観測所及び第3種観測所)	
様式1の1	雨量・レーダ雨量・水位・水位流量・水質(採水・自動監視)・底質・地下水 観測所位置(そのⅠ)	永久保存*	保管場所： 事務所 保管方法： 原本又は電子情報等による。なお、電子情報等で保存する場合は、磁気劣化等によりデータ消失しないための適切な措置を講じること。	
1の2	雨量・レーダ雨量・水位・水位流量・水質(採水・自動監視)・底質 観測所位置(そのⅡのⅠ)			
1の3	地下水 観測所位置(そのⅡのⅡ)			
1の4	雨量・水位・水位流量・水質(自動監視)・底質・地下水 施設配置図			
1の5	雨量・水位・水位流量・水質(自動監視)・底質・地下水 施設構造図			
1の6	雨量 観測器械及び施設(そのⅠのⅠ)			
1の7	水位・水位流量・地下水 観測器械及び施設(そのⅠのⅡ)			
1の8	水質自動監視 観測機器及び施設(そのⅠのⅢ)			
1の9	雨量・水位・水位流量・水質(自動監視)・底質・地下水 観測器械及び施設(そのⅡ)			
1の10	雨量・水位・水位流量・水質(採水・自動監視)・底質・地下水 観測所写真			
1の11	雨量・水位・水位流量・地下水 水準点記録(そのⅠ)			
1の12	雨量・水位・水位流量・地下水 水準点記録(そのⅡ)			
1の13	水質(採水・自動監視)・底質・地下水 観測項目			
1の14	地下水観測所柱状図			
1の15	雨量 観測所一覧表			
1の16	水位及び水位流量 観測所一覧表			
1の17	水質(自動監視装置、採水)及び底質 観測所一覧表			* 文書管理上は「30年保存」とし、保存期間満了時には各事務所にて保存期間を30年延伸する。
1の18	地下水(水位・水質) 観測所一覧表			
附图1	観測所配置図(20万分の1)			

別表2の1 観測所コード

コード	分類	備考
1	雨量観測所	積雪を含む
2	レーダ雨量観測所	
3	水位観測所及び水位流量観測所	
4	水質観測所及び底質観測所	水質自動監視装置を含む
5	地下水位観測所及び地下水質観測所	

別表2の2 水系コード(一級水系)

コード	水系名	備考	コード	水系名	備考	コード	水系名	備考
0101	天塩川	北海道開発局	0401	荒川	北陸地方整備局	0701	千代川	中国地方整備局
0102	留萌川		0402	阿賀野川		0702	天神川	
0103	石狩川		0403	信濃川		0703	日野川	
0104	尻別川		0404	関川		0704	斐伊川	
0105	後志利別川		0405	姫川		0705	江の川	
0106	鶴川		0406	黒部川		0706	高津川	
0107	沙流川		0407	常願寺川		0707	佐波川	
0108	十勝川		0408	神通川		0708	小瀬川	
0109	釧路川		0409	庄川		0709	太田川	
0110	網走川		0410	小矢部川		0710	芦田川	
0111	常呂川		0411	手取川		0711	高梁川	
0112	湧別川		0412	梯川		0712	旭川	
0113	渚滑川		0501	狩野川	中部地方整備局	0713	吉井川	
0201	阿武隈川	東北地方整備局	0502	安倍川		0801	重信川	四国地方整備局
0202	名取川		0503	大井川		0802	肱川	
0203	鳴瀬川		0504	菊川		0803	渡川	
0204	北上川		0505	天竜川		0804	仁淀川	
0205	馬淵川		0506	豊川		0805	物部川	
0206	高瀬川		0507	矢作川		0806	那賀川	
0207	岩木川		0508	庄内川		0807	吉野川	
0208	米代川		0509	木曾川		0808	土器川	
0209	雄物川		0510	鈴鹿川		0901	遠賀川	九州地方整備局
0210	子吉川		0511	雲出川		0902	松浦川	
0211	最上川		0512	櫛田川		0903	本明川	
0212	赤川		0513	宮川		0904	六角川	
0301	久慈川	関東地方整備局	0601	新宮川	近畿地方整備局	0905	嘉瀬川	
0302	那珂川		0602	紀の川		0906	筑後川	
0303	利根川		0603	大和川		0907	矢部川	
0304	荒川		0604	淀川		0908	菊池川	
0305	多摩川		0605	加古川		0909	白川	
0306	鶴見川		0606	揖保川		0910	緑川	
0307	相模川		0607	九頭竜川		0911	球磨川	
0308	富士川		0608	北川		0912	川内川	
			0609	由良川		0913	肝属川	
			0610	円山川		0914	大淀川	
			0611	六甲山系	砂防のみ適用	0915	小丸川	
						0916	五ヶ瀬川	
						0917	番匠川	
						0918	大野川	
						0919	大分川	
						0920	山国川	

※二級水系(準用河川及び普通河川単独の水系を含む。)については、河川コードにおける水系コードを用いる。

別表2の3 所管コード 平成29年3月現在

コード	府省庁名	備考
01	内閣府	
02	国家公安委員会	(警察庁)
03	防衛庁	
04	総務省	
05	法務省	
06	外務省	
07	財務省	
08	文部科学省	
09	厚生労働省	
10	農林水産省	
11	経済産業省	
12	国土交通省	
13	環境省	
14	(気象庁)	国土交通省
15	(海上保安庁)	国土交通省
16	(国土地理院)	国土交通省
17	(林野庁)	農林水産省
18	(消防庁)	総務省
19	(水資源機構)	独立行政法人
99	(その他)	民間企業等

別表2の4 地方整備局等コード 平成29年3月現在

コード	府省庁名	備考
81	北海道開発局	
82	東北地方整備局	
83	関東地方整備局	
84	北陸地方整備局	
85	中部地方整備局	
86	近畿地方整備局	
87	中国地方整備局	
88	四国地方整備局	
89	九州地方整備局	
90	沖縄総合事務局	
98	土木研究所(寒地土木研究所)	国立研究開発法人
99	土木研究所(上記以外)	国立研究開発法人

※整備局等コードは、事務所コードと合わせて用いる。(土木研究所の場合は事務所コードを「000」とする。)

別表2の5 地方公共団体等コード

平成29年3月現在

コード	地方公共団体	備考	コード	地方公共団体	備考	コード	地方公共団体	備考
01000	北海道		17000	石川県		33000	岡山県	
02000	青森県		18000	福井県		34000	広島県	
03000	岩手県		19000	山梨県		35000	山口県	
04000	宮城県		20000	長野県		36000	徳島県	
05000	秋田県		21000	岐阜県		37000	香川県	
06000	山形県		22000	静岡県		38000	愛媛県	
07000	福島県		23000	愛知県		39000	高知県	
08000	茨城県		24000	三重県		40000	福岡県	
09000	栃木県		25000	滋賀県		41000	佐賀県	
10000	群馬県		26000	京都府		42000	長崎県	
11000	埼玉県		27000	大阪府		43000	熊本県	
12000	千葉県		28000	兵庫県		44000	大分県	
13000	東京都		29000	奈良県		45000	宮崎県	
14000	神奈川県		30000	和歌山県		46000	鹿児島県	
15000	新潟県		31000	鳥取県		47000	沖縄県	
16000	富山県		32000	島根県		99999	その他	

※市町村コードは「全国地方公共団体コード」による。

※その他は、民間企業等に適用する。

(留意事項)

各コードに該当事項が無い場合は当該桁を「0」とする。

別表2の6(1) 事務所コード

平成29年3月現在

コード	事務所等名	備考	コード	事務所等名	備考
101	札幌開発建設部	北海道開発局	301	利根川上流河川事務所	関東地方整備局
102	函館開発建設部		302	利根川下流河川事務所	
103	小樽開発建設部		303	霞ヶ浦河川事務所	
104	旭川開発建設部		304	霞ヶ浦導水工事事務所	
105	室蘭開発建設部		305	江戸川河川事務所	
106	釧路開発建設部		306	渡良瀬川河川事務所	
107	帯広開発建設部		307	下館河川事務所	
108	網走開発建設部		308	荒川上流河川事務所	
109	留萌開発建設部		309	荒川下流河川事務所	
110	稚内開発建設部		310	京浜河川事務所	
199	その他の開発建設部等		311	利根川水系砂防事務所	
201	青森河川国道事務所	東北地方整備局	312	日光砂防事務所	
202	高瀬川河川事務所		313	富士川砂防事務所	
203	岩木川ダム統合管理事務所(旧津軽ダム工事事務所)		314	ハッ場ダム工事事務所	
204	岩手河川国道事務所		315	利根川ダム統合管理事務所(旧利根川水系総合調査事務所)	
205	北上川ダム統合管理事務所(旧胆沢ダム工事事務所)		316	鬼怒川ダム統合管理事務所(旧湯西川ダム工事事務所)	
206	仙台河川国道事務所		317	利根川ダム統合管理事務所	
207	北上川下流河川事務所		318	鬼怒川ダム統合管理事務所	
208	鳴瀬川総合開発工事事務所(旧鳴瀬川総合開発調査事務所)		319	相模川水系広域ダム管理事務所	
209	秋田河川国道事務所		320	二瀬ダム管理所	
210	湯沢河川国道事務所		321	品木ダム水質管理所	
211	能代河川国道事務所		322	常陸河川国道事務所	
212	能代河川国道事務所(旧森吉山ダム工事事務所)		323	高崎河川国道事務所	
213	鳥海ダム調査事務所		324	甲府河川国道事務所	
214	山形河川国道事務所		325	関東技術事務所	
215	酒田河川国道事務所		399	その他の事務所	
216	新庄河川事務所				
217	最上川ダム統合管理事務所(旧長井ダム工事事務所)				
218	福島河川国道事務所				
219	摺上川ダム管理所				
220	北上川ダム統合管理事務所				
221	最上川ダム統合管理事務所				
222	岩木川ダム統合管理事務所(旧浅瀬石川ダム管理所)				
223	鳴子ダム管理所				
224	釜房ダム管理所				
225	七ヶ宿ダム管理所				
226	玉川ダム管理所				
227	月山ダム管理所				
228	三春ダム管理所				
229	東北技術事務所				
230	鳴瀬ダム工事事務所				
299	その他の事務所				

別表2の6(2) 事務所コード

平成29年3月現在

コード	事務所等名	備考	コード	事務所等名	備考
401	信濃川下流河川事務所	北陸地方整備局	601	福井河川国道事務所	近畿地方整備局
402	阿賀野川河川事務所		602	足羽川ダム工事事務所	
403	信濃川河川事務所(コード405以外)		603	琵琶湖河川事務所	
404	湯沢砂防事務所(コード405以外)		604	大戸川ダム工事事務所	
405	信濃川河川事務所(旧 清津川ダム調査事務所(一部除く)) 湯沢砂防事務所(旧 清津川ダム調査事務所(一部のみ))		605	福知山河川国道事務所	
406	羽越河川国道事務所		606	淀川河川事務所	
407	高田河川国道事務所		607	大和川河川事務所	
408	富山河川国道事務所		608	猪名川河川事務所	
409	黒部河川事務所		609	猪名川河川事務所(旧猪名川総合開発工事事務所)	
410	立山砂防事務所		610	豊岡河川国道事務所	
411	利賀ダム工事事務所		611	姫路河川国道事務所	
412	金沢河川国道事務所		612	六甲砂防事務所	
413	飯豊山系砂防事務所		613	紀の川ダム統合管理事務所(旧 大滝ダム工事事務所)	
414	羽越河川国道事務所(旧横川ダム工事事務所)		614	和歌山河川国道事務所(コード616以外)	
415	阿賀川河川事務所		615	紀南河川国道事務所	
416	千曲川河川事務所		616	和歌山河川国道事務所(旧 紀伊丹生川ダム調査事務所)	
417	松本砂防事務所		617	木津川上流河川事務所	
418	神通川水系砂防事務所		618	淀川ダム統合管理事務所	
419	三国川ダム管理所		619	九頭竜川ダム統合管理事務所	
420	大町ダム管理所		620	紀の川ダム統合管理事務所(旧 猿谷ダム管理所)	
421	北陸技術事務所		621	近畿技術事務所	
499	その他の事務所		622	紀の川ダム統合管理事務所(コード613, 620以外)	
501	多治見砂防国道事務所	中部地方整備局	623	淀川水系総合調査事務所	
502	木曾川上流河川事務所		699	その他の事務所	
503	越美山系砂防事務所		701	鳥取河川国道事務所	中国地方整備局
504	新丸山ダム工事事務所		702	倉吉河川国道事務所	
505	庄内川河川事務所(旧小里川ダム管理所)		703	日野川河川事務所	
506	木曾川上流河川事務所(旧横山ダム工事事務所)		704	鳥取河川国道事務所(旧殿ダム工事事務所)	
507	静岡河川事務所		705	出雲河川事務所	
508	沼津河川国道事務所		706	出雲河川事務所(旧斐伊川・神戸川総合開発工事事務所)	
509	富士砂防事務所		707	浜田河川国道事務所	
510	浜松河川国道事務所		708	岡山河川事務所	
511	庄内川河川事務所		709	苫田ダム管理所(旧 苫田ダム工事事務所)	
512	豊橋河川事務所		710	福山河川国道事務所	
513	設楽ダム工事事務所		711	三次河川国道事務所	
514	三重河川国道事務所		712	太田川河川事務所	
515	木曾川下流河川事務所		713	三次河川国道事務所(旧江の川総合開発工事事務所)	
516	天竜川上流河川事務所		714	温井ダム管理所(旧 温井ダム工事事務所)	
517	三峰川総合開発工事事務所		715	山口河川国道事務所	
518	天竜川ダム統合管理事務所		716	土師ダム管理所	
519	丸山ダム管理所		717	弥栄ダム管理所	
520	矢作ダム管理所		718	八田原ダム管理所	
521	蓮ダム管理所		719	中国技術事務所	
522	中部技術事務所		799	その他の事務所	
523	長島ダム管理所				
599	その他の事務所				

別表2の6(3) 事務所コード

平成29年3月現在

コード	事務所等名	備考	コード	事務所等名	備考
801	徳島河川国道事務所	四国地方整備局	901	筑後川河川事務所	九州地方整備局
802	四国山地砂防事務所		902	遠賀川河川事務所	
803	那賀川河川事務所		903	武雄河川事務所	
804	香川河川国道事務所		904	武雄河川事務所(旧佐賀河川総合開発工事事務所)	
805	松山河川国道事務所		905	武雄河川事務所(旧嘉瀬川ダム工事事務所)	
806	大洲河川国道事務所		906	長崎河川国道事務所	
807	山鳥坂ダム工事事務所		907	雲仙復興事務所	
808	高知河川国道事務所		908	熊本河川国道事務所	
809	中村河川国道事務所		909	八代河川国道事務所	
810	中筋川総合開発工事事務所		910	川辺川ダム砂防事務所	
811	吉野川ダム統合管理事務所		911	菊池川河川事務所	
812	野村ダム管理所		912	立野ダム工事事務所	
813	大渡ダム管理所		913	大分河川国道事務所	
814	四国技術事務所		914	佐伯河川国道事務所	
899	その他の事務所		915	大分川ダム工事事務所	
			916	宮崎河川国道事務所	
			917	延岡河川国道事務所	
			918	川内川河川事務所	
			919	大隅河川国道事務所	
			920	筑後川ダム統合管理事務所	
			921	山国川河川事務所(旧 山国川ダム・堰統合管理事務所)	
			922	武雄河川事務所(旧厳木ダム管理所)	
			923	緑川ダム管理所	
			924	鶴田ダム管理所	
			925	九州技術事務所	
			999	その他の事務所	
			001	北部ダム統合管理事務所	沖縄総合事務局
			002	旧北部ダム事務所	
			099	その他の事務所	

別表3 観測野帳等の種類

様式番号	名 称	報告期間	保存期間		保存場所・方法 ※3
			(第1種観測所、第2種観測所及び第3種観測所)		(第1種観測所、第2種観測所及び第3種観測所)
—	雨量観測自記紙	翌月10日 ※1	5年保存	主要洪水及び主要濁水は永久保存 ※4	事務所・原本保存※5
—	水位・地下水位観測自記紙				
—	テレメータデータ ※2	—	永久保存 ※4		事務所・電子情報等で保存
—	電子ロガーデータ	—	5年保存	主要洪水及び主要濁水は永久保存 ※4	
—	Cバンドレーダオンライン合成雨量データ	—	5年保存		全国合成局・電子情報等で保存※6
—	Cバンドレーダ同時刻合成雨量データ	—	永久保存 ※4		地方整備局・電子情報等で保存※6
—	XバンドMPレーダ合成雨量データ	—			
—	CバンドMPレーダ・XバンドMPレーダ合成雨量データ	—			
—	CバンドMPレーダRawデータ(配信用仰角)	—			
—	XバンドMPレーダRawデータ(配信用仰角)	—			
—	XバンドMPレーダRawデータ(配信用仰角)	—			
様式2の1	流量観測野帳(一般)	—	永久保存 ※4		事務所・原本保存※5
2の2	流量観測野帳(浮子)	—			
2の3	流量観測野帳(精密法)	—			
2の4	流量観測野帳(ADCP)	—			
—	流量観測データ(ADCP)	—			
2の5	水質観測野帳	—	5年保存	異常水質時は永久保存 ※4	事務所・原本保存※5
—	分析野帳	—	永久保存 ※4		
—	水質自動監視装置自記紙	—	5年保存	異常水質時は永久保存 ※4	

※1 長期巻の場合は4ヶ月目の10日

※2 テレメータデータの収集方式が原因で毎正時のデータが得られない場合や水位等の微小変動に対応した平均処理を行っていない場合を除く。

※3 電子情報等で保存する場合は、磁気劣化等によりデータ消失しないための適切な措置を講じること。

※4 文書管理上は「30年保存」とし、保存期間満了時には各事務所において保存期間を30年延伸する。

※5 原本保存の場合の保存方法は、原本もしくはPDF等の電子情報とする。

※6 レーダ合成雨量データの整理及び保存の単位は降水強度とする。

別表4 事務所及び地方整備局の報告様式等

様式番号	名 称	報告の対象様式		保存期間 (第1種観測所、第2種観測所 及び第3種観測所)	保存場所・方法 (第1種観測所、第2種観測所 及び第3種観測所)
		事務所 (第1種観測所、第2種観測所 及び第3種観測所)	地方整備局 (第1種観測所)		
様式3の1	時間降水量月表	—	—	永久保存(※4)	保存場所： 事務所又は地方整備局 保存方法： 原本又は電子情報等による。なお、電子情報等で保存する場合は、磁気劣化等によりデータ消失しないための適切な措置を講じること。
3の2	日降水量年表	○	○		
3の3	年降水量状況	○	—		
3の4	降水量状況	○	—		
3の5	時刻水位月表	—	—		
3の6	日水位年表	○	—		
3の7	日水位年図	○(※1)	—		
3の8	年水位状況	○(※1)	—		
3の9	観測流量表	○	○		
3の10	水位流量曲線図	○	—		
3の11	時刻流量月表	—	—		
3の12	日流量年表	○	—		
3の13	日流量年図	○	—		
3の14	流量計算書(浮子)	○	—		
3の15	断面計算書(そのⅠ)	○	—		
3の16	断面計算書(そのⅡ)				
3の17	横断面図	○	—		
3の18	年流量状況	○	○		
3の19	流況表	○	—		
3の20	水質年表(採水)	○	○(※2)		
3の21	時刻水質月表(水質自動監視装置)	—	—		
3の22	水質月表(水質自動監視装置)	—	—		
3の22	水質年表(水質自動監視装置)	—	—		
3の24	底質年表	○	—		
3の25	時刻地下水水位月表	—	—		
3の26	日地下水水位年表	○(※1)	○		
3の27	地下水水位の経年変化	○(※1)	—		
3の28	地下水水位経年変化図	○(※1)	—		
3の29	地下水水質年表	○(※1)	○		
参考様式3の30	10分降水量日表	○	—		
参考様式3の31	10分水位日表	○	—		

※1 第1種観測所のみ報告の対象とする。

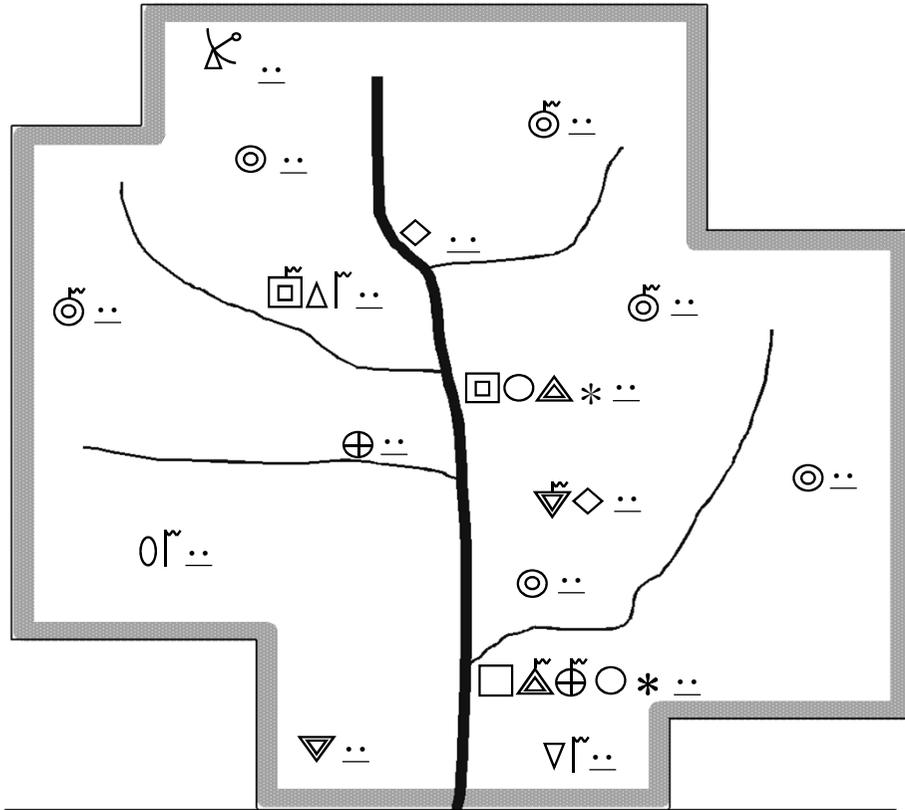
※2 第2種観測所も報告の対象とする

※3 レーダ雨量観測については、様式によらず解析処理データにより報告及び保存する。

※4 文書管理上は「30年保存」とし、保存期間満了時には各事務所において保存期間を30年延伸する。

附図

観測所配置図(20万分の1)



注. 20万分の1で煩雑になる場合は拡大図を添付する。

観測区分	降水量	レーダ 雨雪量	水位	流量	地下水		水質・底質
					水位	水質	
採水・採泥	—	—	—	—	—	—	採水 (基準地点) ○
						◇	採水 (一般地点) ○
							採泥 *
自記	◎	—	△	□	▽	—	水質自動監視装置 ⊕
自記+テレ	◎	✂	△	□	▽	—	水質自動監視装置+テレ ⊕
テレ	〇	—	△	□	▽	—	

注. 電子ロガーを用いた記録観測は「自記」として区分する。

観測所 種別	第1種観測所	赤色—	(観測所記号)
	第2種 "	青色—	(観測所記号)
	第3種 "	黒色—	(観測所記号)
廃止		×	(観測所記号)

様式1の1

雨量
レーダ雨量
水位
流量
水質
底質
地下水

観測所位置(そのI)

(採水・自動監視)

種別	観測所記号								
		⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

水系名	河川名	観測所名	読み
			() 年 月 日記入

1. 20万分の1の地図で北方として観測所が中央になるようにして枠内一杯に貼付する。
2. 記号は附図の凡例による。

雨量
レーダ雨量
水位
流量
水質
底質

観測所位置(そのⅡのⅠ)

(採水・自動監視)

種別	観測所記号										

水系名		河川名		観測所名		読み	
位置	都道府県		区市郡		町村		
	左岸	右岸	秆杭	上下	m	所管事務所	
緯度(北緯)	°	'	"	標高(m)	.		
経度(東経)	°	'	"	零点高(m)	.		
					流域面積(km ²)	.	
項目	観測期間					観測器械の形式	
普通(又は採水)	()	年	月	日から	()	年	月 日
自記 (又は自動監視)	()	年	月	日から	()	年	月 日
テレメータ	()	年	月	日から	()	年	月 日
	()	年	月	日から	()	年	月 日
電子ロガー	()	年	月	日から	()	年	月 日
	()	年	月	日から	()	年	月 日
流速計	()	年	月	日から	()	年	月 日
	()	年	月	日から	()	年	月 日
レーダ雨量計	()	年	月	日から	()	年	月 日
事務所より観測所に至る間の距離及び所要時間							
略 図							
							() 年 月 日記入

- 雨量観測所の流域面積は流域をティーセン分割した面積とする。
- 観測器械が複数設置してあるときは、観測期間の欄に二段書きする。
- 観測を廃止したときは、観測期間の欄に廃止年月日を記載する。
- 緯度、経度は、雨量にあっては受水口の位置、水位及び水位流量にあっては水位標の位置とし、世界測地系とする。
- 標高は、雨量の場合は雨量計受感部、水位の場合は水準基標の高さとする。

種別	観測所記号						

地下水 観測所位置(そのIIのII)

水系名		河川名		観測所名		読み	
メッシュコード			所在地		所管事務所	緯度(北緯)	° / "
20万	2.5万	基準	都道府県	市区郡町村		経度(東経)	° / "
						標高(m)	.
						零点高(m)	.
項目		観測期間				観測器械の形式	
普通		() 年 月 日から () 年 月 日					
自記		() 年 月 日から () 年 月 日					
電子ロガー		() 年 月 日から () 年 月 日					
採水(水質)		() 年 月 日から () 年 月 日					

特記事項							
------	--	--	--	--	--	--	--

管頭の標高	地盤高	口径	管底の深度	ストレーナーの深度	採水方法
m	m	mm	m	~ m	

位置図	柱状図
() 年 月 日記入	

1. 位置図は2万5千分の1(必要に応じて5万分の1)の地図に観測井の位置を示す。
2. 観測井の柱状図が存在しないときは、近傍の他の柱状図を用い、その旨を明記する。
3. 緯度、経度は世界測地系とする。

様式1の4

種別	観測所記号							

雨水
水位
流量
水質
底質
地下水

施設配置図

(自動監視)

水系名	河川名	観測所名	読み
			() 年 月 日記入

1. 水質自動監視装置については、観測計器の配置図とする。

種別	観測所記号							

雨水
水位
流量
水質
底質
地下水

施設構造図

(自動監視)

水系名	河川名	観測所名	読み
			() 年 月 日記入

1. 必要に応じて、本様式とあわせて系統図を整理するものとする。
2. 水質自動監視装置については、観測計器の配置図とする。

種別	観測所記号							

雨 量 観測器械及び施設(そのIのI)

水 系 名		河 川 名	観 測 所 名	読 み	
項 目		記 事		支 出 費 目	金 額
器 械	雨量計受感部				
	自記記録計、自記紙				
	テレメータ(観測装置、無線装置)				
	電子ロガー				
	分周器				
	配電盤				
	蓄電池				
	直流電源装置				
	バッテリー				
	太陽電池パネル				
	バッテリー				
	同軸避雷器				
	耐雷変圧器				
	オートリセットブレーカ				
	その他				
施 設	観測局舎				
	柵				
	観測所標識				
	パンザマスト				
	その他				
				() 年 月 日記入	

1. 台帳等作成時における器械、施設の型式、形状寸法、材質等について記入する。
2. 器械の二重化がなされている場合は、記事にその旨を記載する。
3. 項目については観測器械及び施設の設備に応じ適宜追加する。

種別	観測所記号						
		：	：	：	：	：	：

水 位 流 量
水 地 下 水

観測器械及び施設(そのⅠのⅡ)

水 系 名	河 川 名	観 測 所 名	読 み	
項 目	記 事		支 出 費 目	金 額
器 械	水位標			
	主水位計センサー			
	副水位計センサー			
	水位計処理部			
	自記記録計、自記紙 (水研62型)			
	テレメータ(観測装置、無線装置)			
	電子ロガー			
	分周器			
	配電盤			
	蓄電池			
	直流電源装置			
	バッテリー			
	太陽電池パネル			
	バッテリー			
	同軸避雷器			
	耐雷変圧器			
	オートリセットブレーカ			
	その他			
施 設	水準基標			
	観測局舎			
	柵			
	観測所標識			
	その他			
			() 年 月 日記入	

1. 台帳等作成及び観測所新設の時に於ける器械、施設の型式、形状寸法、材質等について記入する。
2. 器械の二重化がなされている場合は、記事にその旨を記載する。
3. 項目については観測器械及び施設の設備に応じ適宜追加する。

種別	観測所記号									

水質自動監視 観測器械及び施設(そのⅠのⅢ)

水系名		河川名		観測所名		読み			
項目		記事				支出費目		金額	
器 械	監視計								
	採水機								
その他									
施 設	観測局舎								
	敷地面積								
	付帯設備								

年月日	記事	支出費目	金額
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			
() . .			

1. 上段の記事は、台帳等作成又は観測所新設における器械、施設の型式、形状寸法、材質、製作会社名、機種名等について記入する。
2. 下段の記事は、その後の器械及び施設の購入、新設、修理等のあらゆるものについて記入する。

種別	観測所記号							
		⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

雨 量
水 位
水 流
水 質
底 質
地 水
下

観測所写真

(採水・自動監視)

水 系 名	河 川 名	観 測 所 名	読 み
			() 年 月 日記入

種別	観測所記号							

雨量
水位
流量
地下水

水準点記録(そのI)

水系名		河川名		観測所名		読み	
位置	原点		都道府県		区市郡		町村
	水準基標		都道府県		区市郡		町村
原点名				水準基標名			
所管事務所			標高	原点	. m	測量	自 年月日
測量者				水準基標	. m	月 日	至 年月日
略図	<div style="border: 1px solid black; height: 400px; width: 100%;"></div>						
							() 年 月 日記入

1. 略図は原点と水準基標の位置が明確にわかるように記入する。(なお、経路の途中は省略してもよい。)

様式2の1の2 (流量観測野帳(一般))

観測所名	読み	種別	観測所記号																	

外 業									
測線番号	左右岸よりの距離(m)	水深(m)			流速				
		往	復	平均	器深(m)	音数	時間(sec)		
							第1回	第2回	平均
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					
	
		.	.	.					

内 業							観測番号		
流速		断面積				流量(m ³ /s)	観測年月日		
点流速(m/s)	測線平均流速(m/s)	平均水深(m)	区分巾(m)	区分断面(m ²)	合計(m ²)		() . .		
		.	.	.			観測者	測定	
		.	.	.				記帳	
		.	.	.			気 象	天候	
		.	.	.				風向	
		.	.	.				風力	
		.	.	.			観測時間(時分)	始め	:
		.	.	.				終り	:
		.	.	.				平均	:
		.	.	.			水 位 (m)		基準
		.	.	.				始め	
		.	.	.				終り	
		.	.	.				平均	
		.	.	.			器 械	流速計型式	No.
		.	.	.				検 定 式	V=N±
		.	.	.			使用 方法	ロッド・ワイヤー・重し	
		.	.	.				舟・橋・徒歩	
		.	.	.			計算者	計 算	
		.	.	.				再計算	
		.	.	.			計算結果	全流量(m ³ /s)	
		.	.	.				全断面積(m ²)	
		.	.	.				平均流速(m/s)	
		.	.	.			備考		
		.	.	.					
		.	.	.					
		.	.	.					
		.	.	.					

※特殊な場合(結氷河川等)については、この様式以外によることができる。

様式 2 の 4 の 1 (流量観測野帳(ADCP))

観測所名	読み	種別	観測所記号								

観測日	年 月 日 (天気:)	記入者氏名

観測所概要

概略水面幅(m)	概略最大水深(m)	概略最大流速(m/s)			
基準断面水位	開始時 m (:)	終了時 m (:)			
潮汐変動※	有 ・ 無	河床移動※	有 ・ 無	磁場の影響※	有 ・ 無
偏角 °	河岸の形状	左岸※	傾斜・鉛直・高水敷	右岸※	傾斜・鉛直・高水敷

「※」マークの項目について、該当するものを○で囲む

使用機器

機器	メーカー名	機種名	シリアル No.
ADCP		周波数 kHz ビームアングル °	
RTK-GPS			
測深器			
GPS コンパス			
遠隔操作装置			
小型ボート			
治具			
台車			

*機器を使用しない場合は、メーカー名に「無」と記入

ADCP の主な設定 (オートモードとした場合に、観測中に値が一つとまらない項目は記載不要)

※ (マニュアルモード ・ オートモード)

層厚(W5)	層数(WN)	測定モード(WM)	アンビギュイティ(WV)	
ピング数(WP)	サブピング数(WO)	ボトムピング数(BP)	ボトムレンジ(BX) 単位: dm	
観測インターバル 秒	標準偏差 cm/s	内部記録※	有 ・ 無	ポーレート
ADCP 器深 cm	ブランク入力値(WF) cm	バッテリー電圧	V	

「※」マークの項目について、該当するものを○で囲む

観測方法

観測法※	・ 有人船 ・ 橋上操作 ・ ラジコンボート ・ その他 ()		
ボート	種類※ (モノハル・トリマラン)	ボート最大長 ()	
観測員名	PC 操作	曳航・操船	管理
使用ソフト	(ver.)	使用 PC	データ保存フォルダ名

「※」マークの項目について、該当するものを○で囲む

様式 2 の 4 の 2 (流量観測野帳(ADCP))

観測所名	読み	種別	観測所記号																	

観測日	年 月 日 (天気:)	記入者氏名
-----	--------------	-------

データ No.	計測開始			計測終了		流量 (m ³ /s)				風速 (m/s)	水面の状況
	出発位置 ※	時刻	岸までの距離(m)	時刻	岸までの距離(m)	実測	上層・下層 不感帯	左右 不感帯※	総流量		
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			
	右岸・左岸						上層 (補完方法:)	左岸 (三・矩・高)			
							下層 (補完方法:)	右岸 (三・矩・高)			

観測概況

「※」マークの項目について、該当するものを○で囲む

【補足】

1) 様式2の4の1

観測所名、種別、観測所記号：国土交通省の水位流量観測所に設定された地点で観測を行う場合は、種別、観測所記号を記入する。

概略水面幅、概略最大水深、概略最大流速：ADCP の設定のため、既往の流量観測結果等をもとに、概略水面幅、概略最大水深、概略最大流速を把握し、記入する。

基準断面水位：観測開始時と終了時の水位値を記入する。

潮汐変動、河床移動：既往の知見をもとに、潮汐変動、河床移動の有無を記入する。

磁場の影響：既往の知見をもとに、磁場の影響の有無を記入する。磁場の影響がある場合は、ADCP に内蔵された磁気コンパスではなく、GPS コンパスを用いて方位を観測する必要がある。

偏角：国土地理院の偏角一覧図の値を記入する。偏角は流向の設定に用いる。

河岸の形状：左右岸の不感帯の流量推定方法を設定するために、傾斜・矩形・高水敷の中から選択する。

使用機器：観測に用いた機器の機種等を記入する。

ADCP の主な設定：下記の ADCP のコマンド一覧を参考に、ADCP の観測設定内容を記入する。

アンビギュイティー (WV)：ビーム放射軸方向の最大流速

$$WV = \text{水平最大流速 (cm/s)} \times \sin(\text{ビームアングル})^\circ \times \text{安全率}$$

ポーレート：通信速度のことで、ADCP では数段階に設定できる。ADCP とパソコンを接続する際に、ADCP に設定されているポーレートと同じポーレートをパソコン側にも設定する必要がある。

観測インターバル：1 アンサンブルの測定間隔のこと。基本的には下記の ADCP コマンド一覧を参考にコマンドを設定し、1 秒から 2 秒の間となることが望ましい。設定したコマンドで観測インターバルが 1 秒から 2 秒の間とならない場合は、層数や層厚を変更することでこれを変化させて調整する。

標準偏差：1 アンサンブルに含まれる流速計測誤差の標準偏差のこと。機器の周波数、層厚、アンビギュイティーベロシティー、1 アンサンブルあたりのピング数に規定される。これらの具体的な関係及び標準偏差の値については、AppendixB-1.7.2 及び 1.7.3 を参照のこと。標準偏差は小さくすることが望ましい。一方で、ping 数を増やして標準偏差を小さくする場合は観測インターバルが長くなるため、両者はトレードオフの関係にある。そのため、標準偏差に関わるコマンドは、流速及び水深に応じた適値を設定する必要がある。

観測法のその他は、ロープ操作（両岸からロープで引き合う）、有人船の場合の小型ボート曳航・治具利用の別などを記入する。

ADCP のコマンド一覧

コマンド名	入力コマンド	設定条件等
CR	1	設定の初期化方法の指定
CF	11111	計測方法およびデータ出力先の設定
BM	5	ボトムトラッキングモードの設定（標準：5、浅水深：7）
BP	3	ボトムトラックの 1 アンサンブルの発信ピング数
BX	150	ボトムトラックの最大計測深度 観測地点の最大水深よりも大きく設定する。単位：dm
ES	0	塩分値
EX	11111	ADCP の観測方法の設定
EZ	111111	ADCP 内部センサーの使用設定
WA	50	反射強度の閾値
WB	0	WM1 のバンドワイズの設定
WD	111100000	測定結果の出力項目の設定

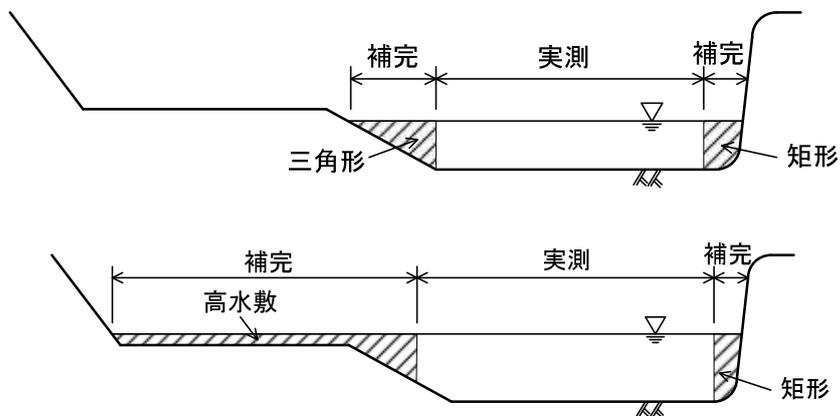
WF	25	トランスデューサー直近のブランク距離
WM	12	観測モード (標準: 1、ハイレゾリューション: 11、ハイスピード: 12)
WN	40	層数 (設定層数)
WP	3	流速測定のための1アンサンブルの送信ピング数
WS	25	層厚
WO	5,4	WM12におけるサブピングの送信ピング数と送信間隔
WV	175	アンビギュイティ速度 $175 \div \sin 20^\circ =$ 相対流速 511cm/s まで計測可能
TE	00:00:00.00	アンサンブル間隔 (最速設定→00:00:00.00)
TP	00:00.00	ピング送信間隔 (最速設定→00:00.00)

2) 様式2の4の2

上層不感帯の補完方法は const. を推奨する。その他の場合は理由を記載する。

下層不感帯の補完方法は non slip を推奨する。その他の場合は理由を記載する。

左右不感帯の流量補完方法 (三・矩・高) は、(三角形・矩形・高水敷) の意。様式2の4の1の河岸の形状 (傾斜・鉛直・高水敷) に応じて下図のように選択する。



風速 : 荒天時における観測中止の判断のため、風速を測定し記入する。

水面の状況 : 荒天時における観測中止の判断のため、水面の振動や流下物の状況を記入する。

様式2の5の2 (水質観測野帳)

水系名	河川名	種別	観測所記号																					

() 年

採水月日		
番号	項目	単位				
K 1						
K 1						
K 2						
K 3						
K 4						
K 5						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
備考						

採水月日		
番号	項目	単位				
K 1						
K 1						
K 2						
K 3						
K 4						
K 5						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
:						
備考						

様式3の2

種別	観測所記号												

日 降 水 量 年 表

() 年

水系名	河川名				観測所名				読み				
日\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
計

1. 日降水量年表は、時間降水量月表の日合計の値を記入する。

種別	観測所記号									

年 降 水 量 状 況

水系名		河川名				観測所名		読み				
() 年	当年	年降水量 (mm)		降水日数 (日)		最大月降水量 (mm)	最大日降水量 (mm)	最大24時間降水量 (mm)	最大3時間降水量 (mm)	最大1時間降水量 (mm)	最大60分降水量 (mm)	
	既 往	合計	年間	.	年間	.	月	月 日	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 分 月 日 時 分
		平均	年間	.	年間	.						
		最大 最小	最大 ()年	最小 ()年	最多 ()年	最少 ()年	()年 月	()年 月 日	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時 分

() 年	当年	年降水量		降水日数		月	月 日	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 分 月 日 時 分
	既 往	合計	年間	.	年間	.					
		平均	年間	.	年間	.					
		最大 最小	最大 ()年	最小 ()年	最多 ()年	最少 ()年	()年 月	()年 月 日	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時

() 年	当年	年降水量		降水日数		月	月 日	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 分 月 日 時 分
	既 往	合計	年間	.	年間	.					
		平均	年間	.	年間	.					
		最大 最小	最大 ()年	最小 ()年	最多 ()年	最少 ()年	()年 月	()年 月 日	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時

() 年	当年	年降水量		降水日数		月	月 日	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 分 月 日 時 分
	既 往	合計	年間	.	年間	.					
		平均	年間	.	年間	.					
		最大 最小	最大 ()年	最小 ()年	最多 ()年	最少 ()年	()年 月	()年 月 日	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時

() 年	当年	年降水量		降水日数		月	月 日	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 月 日 時	月 日 時 分 月 日 時 分
	既 往	合計	年間	.	年間	.					
		平均	年間	.	年間	.					
		最大 最小	最大 ()年	最小 ()年	最多 ()年	最少 ()年	()年 月	()年 月 日	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時 月 日 時	()年 月 日 時

1. 平均処理を行う場合において、降水量は小数点以下1位を、降水日数は小数点以下1位を四捨五入する。
 2. 最大60分降水量は10分テレメータデータより算定した値である。

様式3の5

種別	観測所記号							

時刻水位月表

零点高	.	m
-----	---	---

水系名		河川名				観測所名						読み		() 年 月																			
時	日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
1時	
2時	
3時	
4時	
5時	
6時	
7時	
8時	
9時	
10時	
11時	
12時	
13時	
14時	
15時	
16時	
17時	
18時	
19時	
20時	
21時	
22時	
23時	
24時	
毎時平均	

1. 月 日 時～ 月 日 時の水位は工事による影響がある。

様式3の6

種別	観測所記号									

日 水 位 年 表

零点高 . m

() 年

水系名	河川名			観測所名			読み						
月 日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
平均
位況	最高水位 (m)	豊水位(m) (95日水位)	平水位(m) (185日水位)	低水位(m) (275日水位)	濁水位(m) (355日水位)	最低水位 (m)	平均低水位 (m)	年平均水位 (m)					
	月日時分					月日時分							

1. 平均低水位、年平均水位は、小数以下3位を四捨五入する。
2. 月 日～ 月 日の水位は工事による影響がある。

様式3の7

種別	観測所記号										

日 水 位 年 図

零点高 m

() 年



種別	観測所記号									

年 水 位 状 況

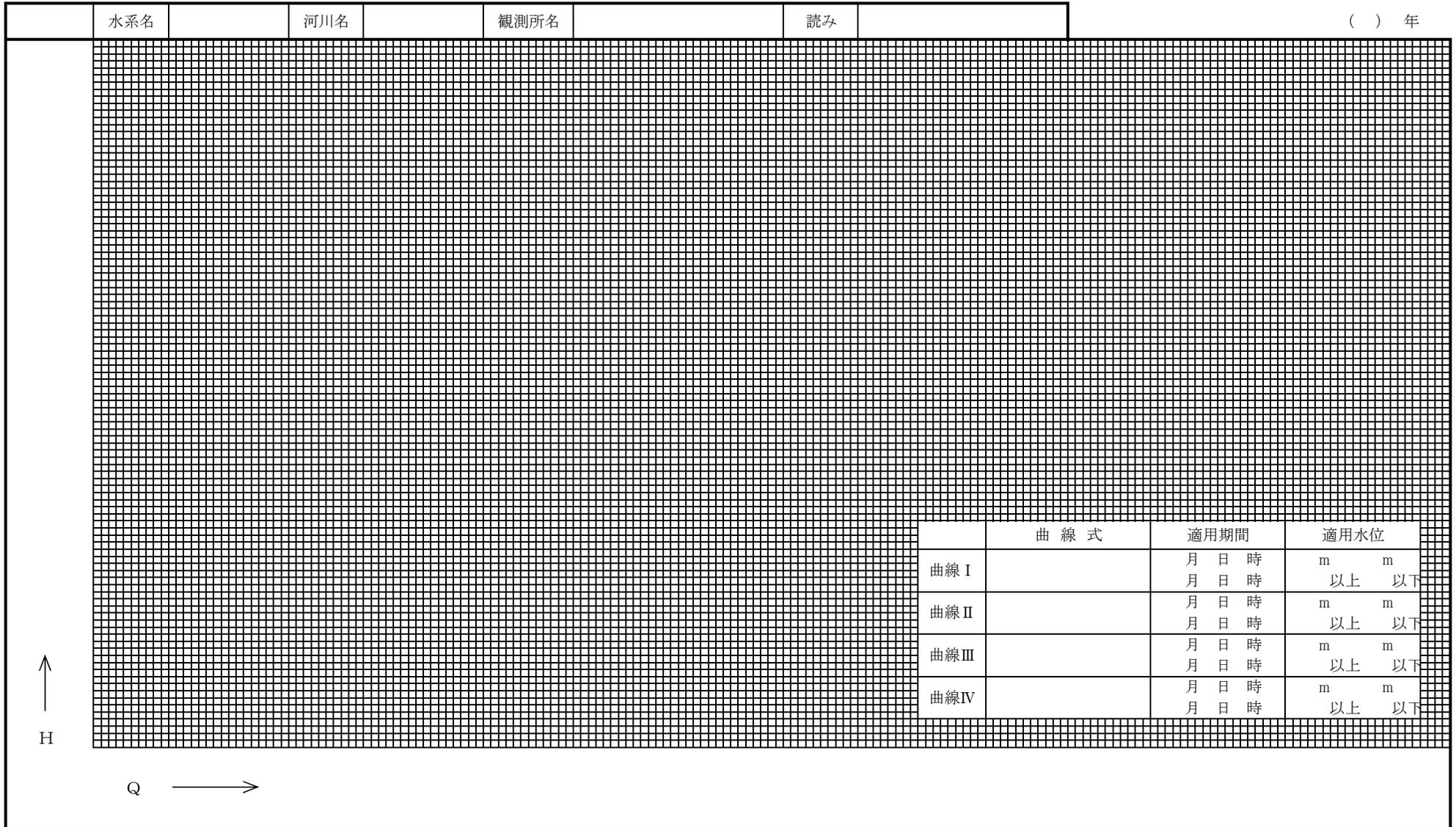
水系名		河川名			観測所名				読み			
年別	水位別	零点高 (m)	最高水位		豊水位 (m)	平水位 (m)	低水位 (m)	濁水位 (m)	最低水位		平均低 水位(m)	年平均 水位(m)
			年月日時分	水位					年月日時分	水位		
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.
() 年	当年
	年間 合計		
	年間 平均		既往最高水位		既往最低水位		.	.

1. 最高水位、最低水位の年月日時欄の記入について、当年欄は月日時分、年間平均欄は年月日を記入する。
2. 諸水位は位況計算表より移記する。
3. 平均は全て小数点以下3位を四捨五入する。

様式3の10

種別	観測所記号										

水位流量曲線図



様式3の11

種別	観測所記号									
	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

時刻流量月表

水系名		河川名				観測所名				読み		() 年 月																					
時	日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
	1時
2時
3時
4時
5時
6時
7時
8時
9時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
日平均流量
日最大流量
日最小流量

1. 観測流量は、小数以下3位を四捨五入する。

様式3の12

種別	観測所記号									

日 流 量 年 表

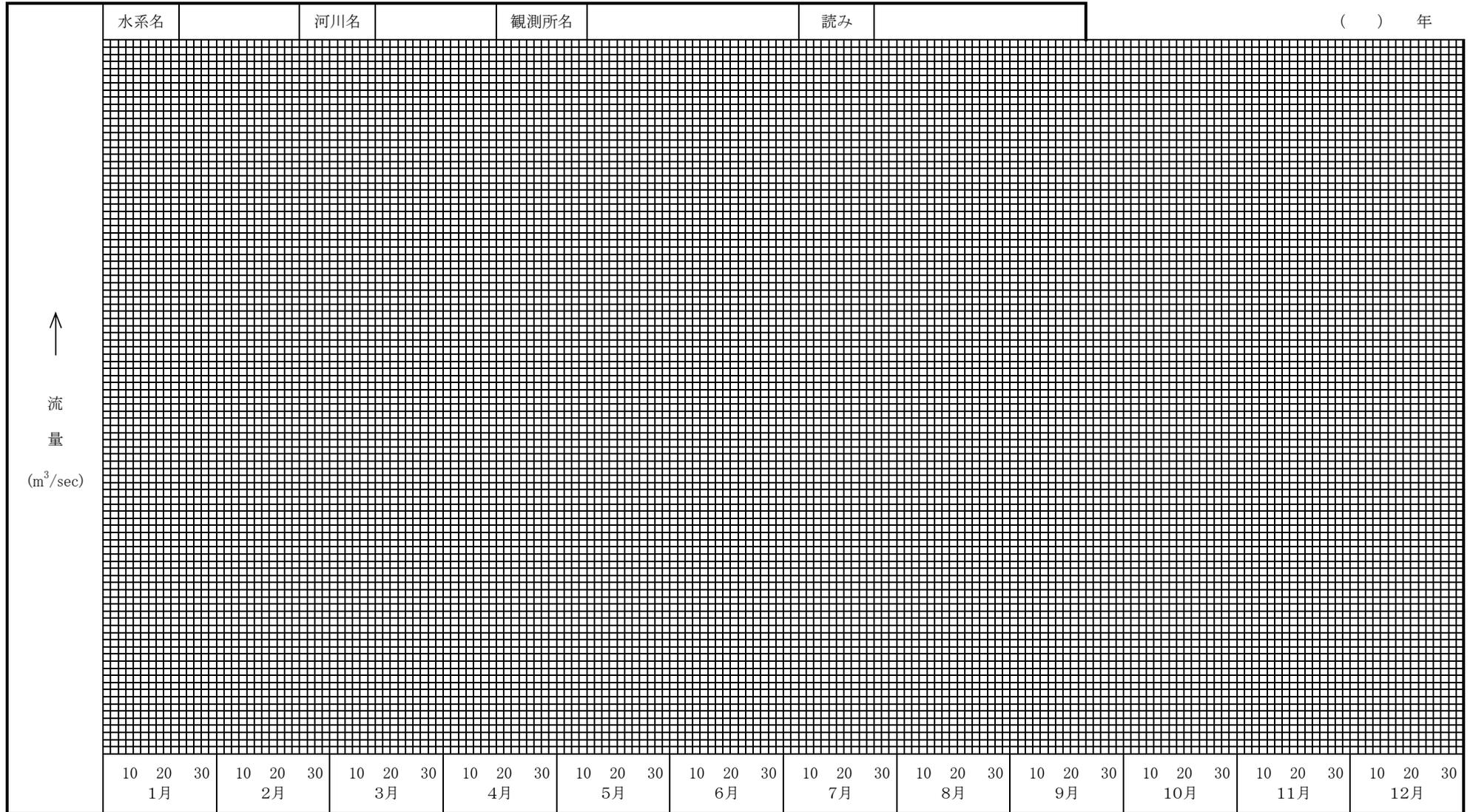
水系名	河川名										観測所名	読み	() 年
月 日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
計
平均
流況	最大流量 (m ³ /s)	豊水流量 (95日水位)	平水流量 (185日水位)	低水流量 (275日水位)	渇水流量 (355日水位)	最小流量 (m ³ /s)	平均低水流量 (m ³ /s)	年平均流量 (m ³ /s)	年総流量 (×10 ⁶ m ³)				
	月日時					月日時							

1. 平均低水流量、年平均流量は、小数以下2位を四捨五入する。年総流量は、小数以下3位(1,000)を四捨五入する。それ以外は、小数以下3位を四捨五入する。

様式3の13

種別	観測所記号												

日 流 量 年 図



様式3の14

種別	観測所記号									

流量計算書(浮子)

() 年

水系名		河川名		観測所名		読み	
観測回数	第 回				年間番号		
観測 月日	月 日	観測 時間	始め	時 分	天 気	風 向	風 力
			終り	時 分			
			平均	時 分			
水位(基準) (m)	全流量 (m ³ /s)	流速測線数 (本)	平均水面巾 (m)	全断面積 (m ²)	水面勾配	平均流速 (m/sec)	流下距離 (m)
.	1/	.	.
水位	基準水位標 (m)	第1水位標 (m)	第2水位標 (m)	水位標 (m)	水位差 (m)	距 離 (m)	水面勾配
始め			
終り			
平均

測線 番号	浮子の種類		投下時刻 (時分)	流下時間 (sec)	浮子 流下速度 (m/sec)	更正 係数	更正流速 (m/sec)	区分断面積(高水前後)			区分流量 (m ³ /sec)	
	種別	吃水						第1断面積 (m ²)	第2断面積 (m ²)	平均断面積 (m ²)		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
流 下 状 況											計	.

種別	観測所記号									
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

断面積計算書 (そのⅡ)

(高水前後)

観測 月日	() 月 日	観測 回数	第 回	年間番号	観測所名	読み							
第 1 断面							第 2 断面						
区分 断面 番号	距離 (m)	水深 (m)	平均 水深 (m)	区分巾 (m)	断面積 (m ²)	区分断 面積計 (m ²)	区分 断面 番号	距離 (m)	水深 (m)	平均 水深 (m)	区分巾 (m)	断面積 (m ²)	区分断 面積計 (m ²)

	基準断 面積 (m ²)		基準断 面積 (m ²)

	.	.	区分巾計=			.		.	.	区分巾計=			.

	基準断 面積 (m ²)		基準断 面積 (m ²)

	.	.	区分巾計=			.		.	.	区分巾計=			.

	基準断 面積 (m ²)		基準断 面積 (m ²)

	.	.	区分巾計=			.		.	.	区分巾計=			.

様式3の17

種別	観測所記号							
		⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

横 断 面 図

	水系名		河川名		観測所名		読み		位置	左岸 _____	測 量 年 月 日	() 年 月 日	縮 尺	縦 1/	横 1/
									右岸 _____						
地 盤 高															
追加距離															
距 離															
測 点															

種別	観測所記号										
										*	*

年 流 量 状 況

水系名		河川名		観測所名				読み			
年別	水位別	最大流量		豊水流量 (m ³ /sec)	平水流量 (m ³ /sec)	低水流量 (m ³ /sec)	渇水流量 (m ³ /sec)	最小流量		年平均流量 (m ³ /sec)	年総量× 10 ⁶ m ³
		年月日時	流量(m ³ /sec)					年月日時	流量(m ³ /sec)		
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			
() 年	当年
	年間 合計	
	年間 平均	既往最大流量						既往最小流量			
			

1. 最大流量、最小流量の年月日時欄の記入について、当年欄は月日時、年間平均欄は年月日を記入する。
2. 諸流量は位況計算表より移記する。
3. 平均は全て小数点以下3位を四捨五入する。

様式3の22

種別	観測所記号									

水 質 月 表 (水質自動監視装置)

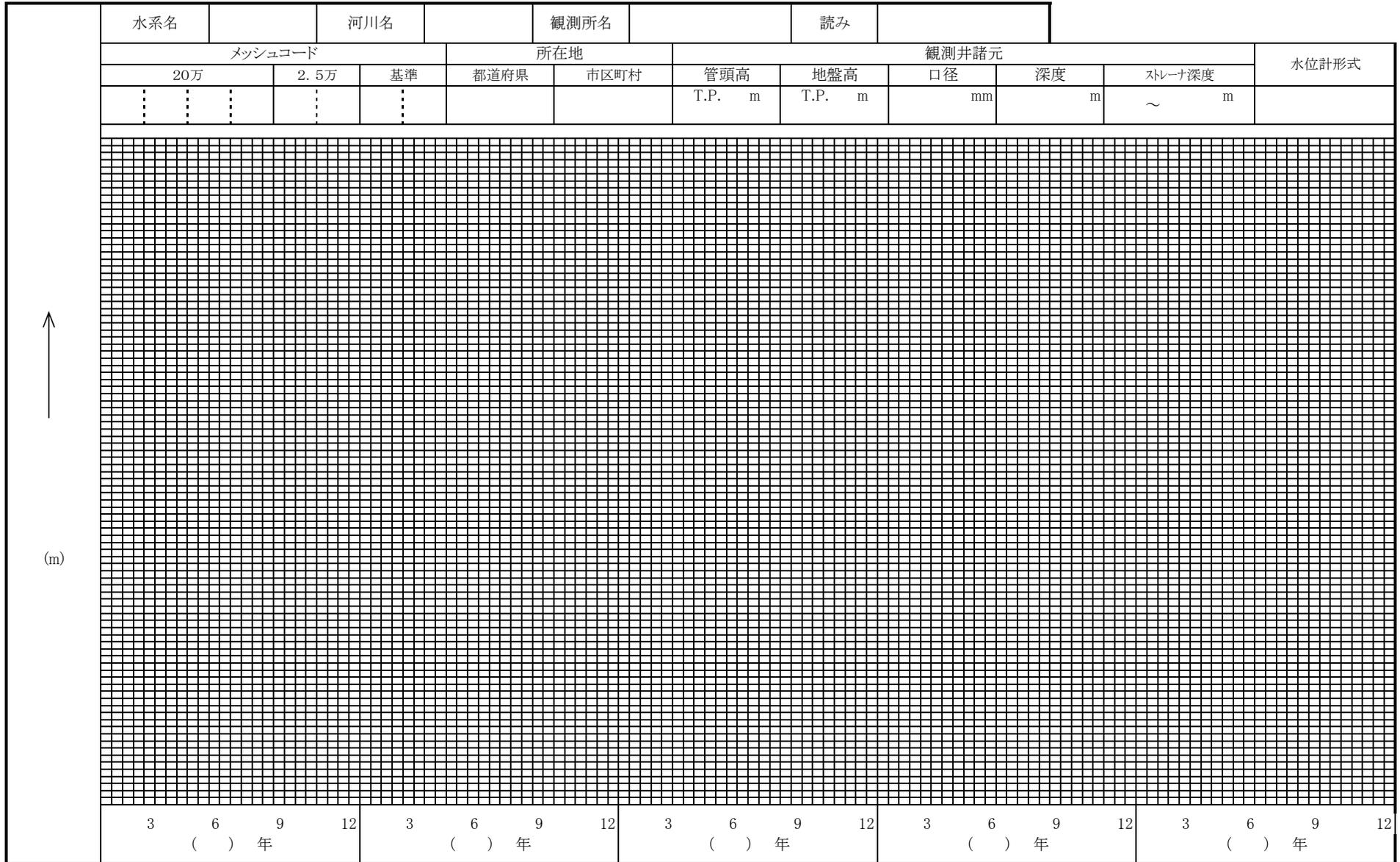
水系名		河川名			観測所名			読み			() 年 月 日 記入					
項目(単位)	()			()			()			()			()			備 考
日	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

1. 欠測の場合は空欄とし理由を記入する。

様式3の28

種別	観測所記号												

地下水位経年変化図



様式3の29

種別	観測所記号									

地下水水質年表

水系名		河川名		観測所名		読み		() 年 月 日 記入				
メッシュコード			所在地			観測井諸元						
20万		2.5万	基準	都道府県	市町村		管頭高 TP. m	地盤高 TP. m	口径 mm	深度 m	ストレナ深度 m	水位計型式
:		:	:	:	:		:	:	:	:	~	:

番号	項目	単位	月日														
KT 1																	
KT 2																	
KT 3																	
KT 4																	
KT 5																	
KT 6																	
KT 7																	
KT 8																	
KT 9																	
KT10																	
KT11																	
KT12																	
KT13																	
KT14																	
KT15																	
KT16																	
KT17																	
KT18																	
KT19																	
KT20																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	
.																	

注. 本様式に準じたものであれば可。

参考様式3の30

種別	観測所記号							

10 分 降 水 量 日 表

水系名	河川名						観測所名						読み	() 年 月 日												
時 分	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	時 分	
0~10	0~10
~20	~20
~30	~30
~40	~40
~50	~50
~60	~60
合計	合計

1. 10分降水量は、テレメータデータである。
2. 10分降水量は、主要洪水及び主要濁水等、必要に応じ作成する。

参考様式3の31

種別	観測所記号							

10 分 水 位 日 表

水系名		河川名						観測所名						読み		() 年 月 日											
時	分	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	時	
	0	0
	10	10
	20	20
	30	30
	40	40
	50	50

1. 10分水位は、テレメータデータである。
2. 10分水位は、主要洪水及び主要渇水等、必要に応じ作成する。

様式4

〇〇観測所被災報告書

() 年 月 日 〇〇災害

水系名	河川名	区分	観測所名	種別	復旧費 (千円)	災害状況	復旧概要

記載要領

1. 区分欄には水位流量、水位、雨量の観測所の別を記入する。
2. 種別欄には、自記、テレメータの別を記入する。
3. 復旧費は概算の費用を記入する。
4. 災害状況欄には、
 - イ. 雨量観測所においては、風雨の状況等の被災の原因及び被災状況を記入する。
 - ロ. 水位流量、水位観測所においては、出水状況(最高水位、計画高水位、警戒水位、観測最大流量、計画高水流量)、被災の原因及び積算概要を記入する。
5. 復旧概要欄には、復旧工事の概要及び積算概要を記入する。
6. 〇〇災害の欄には、台風〇号・融雪・高水・異常出水・異常気象等の別を記入する。